

ファイナンス研究会の活動

2014年4月21日(月)

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)

ファイナンス研究会 座長

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株) 高橋 孝一

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1.ファイナンス研究会メンバーリスト（継続中）

2013年度ファイナンス研究会のメンバー：最大 10名（五十音順）

No.	役目	氏名	ふりがな	会社名
1	座長	高橋 孝一	たかはし こういち	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
2		伊藤 哲夫	いとうてつお	株式会社パソナ
3		衣笠 貴宣	きぬがさたかのり	東芝保険サービス株式会社
4		関口 健二	せきぐちけんじ	個人コンサルタント
5		高根沢 保	たかねざわたもつ	ソニー生命保険株式会社
6		田代 邦幸	たしろくにゆき	株式会社インターリスク総研
7		吉田 勇気	よしだ ゆうき	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
8		高橋 孝治	たかはしこうじ	高橋孝治公認会計士事務所
9		篠原 秀一	しのはらしゅういち	株式会社富士通総研
10		真城 源学	ましろげんがく	イツツ・コミュニケーションズ株式会社

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2.経営者の悩み(何がリスク? 資金繰りは)

1. ビール・清涼飲料水・アイスクリーム業界の困る気象現象は?
2. あなたはゴルフ場の経営者、困る天候は?
3. あなたはスキー場の経営者、困る天候は?
4. お茶を生産している農家(農業法人)、困る自然災害は?
5. ディズニーランド 地震がおきたら入場料の補償は?
6. 食品事業者がアレルギー表示を間違えた、回収コストはいくら、資金繰りは?
7. 火山灰で倉庫がつぶれてしまった。これ何保険で補償される?
8. 防災観点の修理代金は「物保険」と「人保険」、BC観点では「費用・利益保険」と「賠償責任保険」を活用
9. 中小企業用のBCに活用できる保険はあるの?

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

2-1. 経営者の悩み 回答例

1. ビール・清涼飲料水の困る気象現象は?・・・;冷夏、デリバティブ
2. ゴルフ場の経営者、困る天候は?・・・季節はずれの大雪、デリバティブ
3. スキー場の経営者、困る天候は?・・・まったく雪が降らない、デリバティブ
4. お茶を生産している農家・・・台風がまた来た、デリバティブ
5. ディズニーランド 地震がおきたら入場料の補償は?・・・CATボンド?
6. 食品業者の回収コスト、資金繰り・・・すぐに数千万円、リコール保険
7. 火山灰で倉庫がつぶれてしまった。これ何保険で補償される?・・・地震保険
8. 防災観点の修理代金は「物保険」と「人保険」、BC観点では「費用・利益保険」と「賠償責任保険」を活用
9. 中小企業用のBCに活用できる保険はあるの?・・・BCP地震補償保険など

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

3.BCにおけるファイナンス

BCにおけるファイナンス

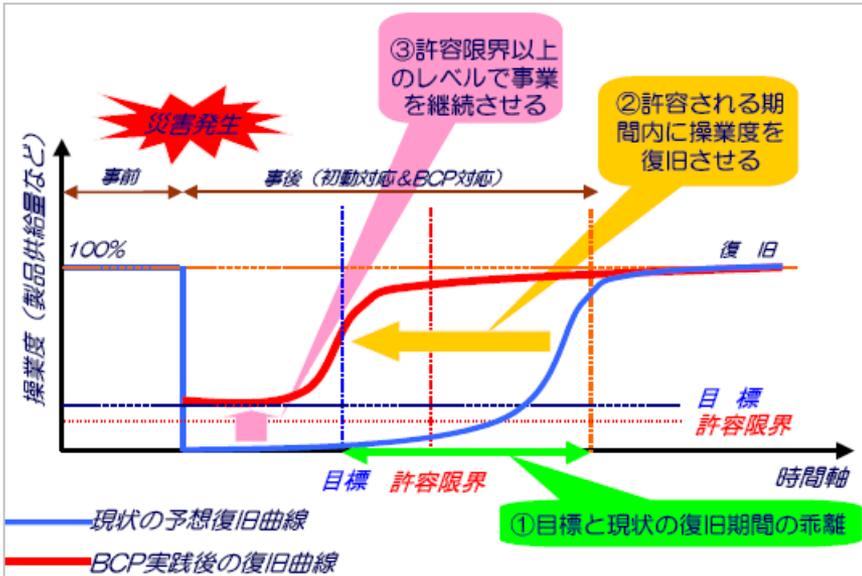
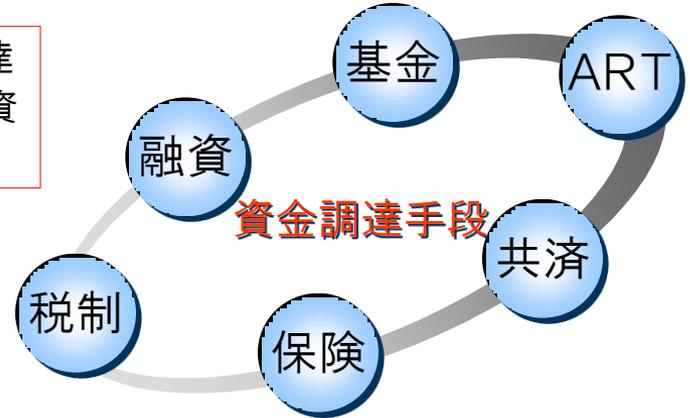
①対策の資金(平時)

代替生産や耐震補強などの各種対策をするための資金

②事業継続の資金(有事)

有事後に事業の運転、復旧のための資金

これらの資金を調達するための様々な資金調達手段



(出典:「内閣府 事業継続ガイドライン 第一版」より)



BCPの一環

資金調達手段の効率的な活用

「事業継続し続ける企業」に

ステークホルダーとの信頼関係を構築

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

4.内閣府ガイドライン(第三版)の資金確保の記載

◆企業が被災すると、収入が減少または一時停止する一方で、給与や調達先等への支払いは継続しなければならず、資金繰り（キャッシュフロー）の悪化が懸念される。

◆東日本大震災においても、キャッシュフローの停滞による資金不足が原因で倒産した企業は多かった。また、被害の復旧や代替拠点の立上げ等のため、臨時的な資金がかなり必要になる。そこで、企業にとって、資金的、財務的な対応が必要になる。このため、企業自身が、日頃から危機的事象への対応の最低限の手元資金を確保するよう努めるとともに、以下のような民間や政府・自治体の災害時融資など、諸制度を事前に調査・検討するとよい。

⇒事前対策に活用できる融資（BCM格付融資、BCPの支援ローン等）

⇒保険、共済、デリバティブ、災害時融資予約、災害時ローンなど

（ただし、事前に契約が必要）

◆また、平常時から金融機関や取引先、親会社と資金面でのコミュニケーションを持っておくことも重要である。さらに、被災時に支払い期限の延長や回収期限前の現金回収が可能な取引先を選別し、提携しておくなどの方法も検討できよう。

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

4-1.内閣府ガイドライン(第三版)の資金確保の例示

注釈で書かれている項目

1. 建物や財物に関する火災保険に地震や水害の場合の支払いも可能とする特約を付けることが可能である。
2. また休業による「営業利益」、「従業員給与等の経常費」を支払う利益保険や営業継続費用保険などもある。保険以外でも地震デリバティブなどの証券化商品も開発されてきている。
3. 大企業向けには、コミットメントライン（確約付き融資）、ボンドなどもある。なお、保険金は資本に充当できる一方、ローンはいずれ返すべき負債になるものであることに留意する。
4. BCM格付融資は日本政策投資銀行で実施しており、地方銀行等からも支援策が打ち出されている。

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

5. 金融面のインセンティブとリスクファイナンス

事前調達

災害が発生する前に耐震診断・耐震補強などを行うための資金調達手段

- BCM格付融資制度
(日本政策投資銀行:BCM格付融資(旧防災格付け融資をリニューアル))
- BCPの対策実施に係る優遇金利融資
(民間金融機関 など)
- 社会環境対応施設整備資金
(日本政策金融公庫) など

事前契約

事後調達

予め契約をしておき、災害後に復旧・運転資金を調達するための手段

- 損害保険(BCP地震補償保険・特定地震危険補償利益保険等)
(民間保険会社)
- 中小企業倒産防止共済(中小企業基盤整備機構)
- コミットメントライン(都市銀行など)
- 保険デリバティブ(民間保険会社)
- 災害時発動型保証予約システム(静岡県信用保証協会)

災害発生

事後契約・事前調達の資金調達手段はない

契約時期は災害後であり、復旧・運転資金を調達できる資金調達手段

- 東日本大震災復興特別貸付
日本政策金融公庫、商工中金 7.2億円、さらに別枠で3億円
- 東日本大震災復興緊急保証および災害関係保証
またはセーフティネット保証
5.6億円は100%保証、一般保証(80%保証)を加えて8.4億円保証
- マル経融資
1,500万円、無担保・無保証人(信用保証協会の保証も不要)

事後契約

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

5-1.BCに活用できるリスクファイナンスその1

リスク ファイナンス手法		保有 移転	支払即時性	ベースス リスク	商品の個別性	事務コスト※1	契約期間	会 計※2	具体的な 活用事例
自己資本 (準備金等)		保 有	—	—	—	—	—	オン バランス	リスクを限定 することなく、 資金需要に活 用
コミットメント ライン			リスク顕在化 から資金化 までの時間 が短い	実際の必要 金額と支払 われる金額 との間に ギャップが生 じる可能性 がある	契約内容が比較 的標準化されて おり、契約までの 時間を要さない	リスク移転商品に 比べ、相対的に 低い(返済義務は 生じる)	短期～1年 が多い	オフ バランス	
コンテン ジェント ・デット					オーダーメイド商 品であるため、ス キームの組成に 時間を要する		長期(複数 年)が多い		災害・事故発 生後の流動 性資金の確 保に活用
保 険	従来の 保険	移 転	リスク顕在化 の後、損害 調査・査定を 要するため、 通常、支払 までに一定 の時間を要 する(内払制 度あり)	実際の損害 額が支払わ れる(実損填 補)	契約内容が比較 的標準化されて おり、契約までの 時間を要さない	多数のものを相手 とし、比較的標準 化されており、他 のリスク移転商品 より比較的低い	1年が多い	オフ バランス	あらゆる純粋リ スクに対して、 広く活用され ている
	ファイナ イト保 険	保 有 & 移 転			オーダーメイド商 品であるため、ス キームの組成に 時間を 要する	個別性が高く、従 来の保険に比して コストが高くなる可 能性がある	長期 (複数年)	オフバランス (「相当の保 険リスクの移 転」が必要)	土壌汚染等、 リスク情報が 乏しいリスクの 保険化に活用
	キャプ ティブ を活用した 保険				基本的には「従来 の保険」と同じ	保険子会社の設 立・運用費用等を 要する	基本的には 「従来の保 険」と同じ	オンバランス (連結子会 社の場合)	リスクマネジメ ントセンターと しての活用等

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCA0全体の見解ではありません。

5-2.BCに活用できるリスクファイナンスその2

リスクファイナンス手法	保有移転	支払即時性	ベースリスク	商品の個性	事務コスト※1	契約期間	会計※2	具体的な活用事例
保険 デリバティブ	移 転	リスク顕在化から資金化までの時間が短い	一般に、実際の損害額と支払われる金額との間にギャップが生じる可能性がある	契約内容が一定程度標準化されており、契約までの時間をさほど要さない	個性が高く、従来の保険に比してコストが高くなる	短期～1年が多い	オフバランス	地震や天候を対象としたものが多い
コンティンジェント・エクイティ								(日本での組成例無し)
CATボンド		トリガーイベント(支払事由となる事象)によって異なるが、一般に、リスク顕在化から資金化までの時間が短い	トリガーイベントによって異なるが、一般に、実際の損害額と支払われる金額との間にギャップが生じる可能性がある	オーダーメイド商品であるため、スキームの組成に時間を要する	個性が高く、相応に組成コストがかかるため大規模案件向き	長期(複数年)が多い	オンバランス(スキームによってはオフバランス)	地震等異常発生後の利益減少の補填に活用

※1 事務コスト:リスク分析のためのコストや、手数料、弁護士費用、登記費用等のスキーム組成のためのコスト。

※2 会計(財務会計):リスクファイナンス商品の導入コスト(たとえば保険における「保険料」)ではなく、リスクファイナンス商品の導入によって手当てされる額(たとえば保険における「補償額」)の会計上の取扱いを表示。

出所:経済産業省 リスクファイナンス研究会、「リスクファイナンス研究会報告書～リスクファイナンスの普及に向けて～」、平成18年3月

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
ファイナンス研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)